

自己点検・評価での課題への対応

部局等 国際地域マネジメント研究科

自己点検・評価での課題等 (令和5年 10月 14日実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等	対応策に対する進捗状況
<p>基準番号：1 理念・目標</p> <p>広報活動や頻繁な企業訪問にも関わらず、受験者数が停滞している。</p>	<p>受験者数の増加に向けて、令和5年度には入試広報用のチラシの作成や SNS 等の活用など、新たな広報活動に取り組んでいる。それらの効果は令和6年度大学院入試の結果を踏まえ慎重に見極め、必要に応じて更なる対策を講じる。</p>	<p>R6年度に継続実施した取組みとしては、研究科パンフレットと入試広報用のチラシの改訂・追加、企業・自治体訪問の継続実施、ホームページの改修、SNS 等の各種媒体を利用した広報等がある。</p> <p>新規実施の取組みには、企業訪問先の拡大(新規訪問先の追加)、第2回目の入試事前説明会の新規追加開催と内容の拡張(ハイブリッド形式で、修了生も参加した小セミナー+授業見学形式の導入)、各種媒体を利用した広報(校友会や福大プラットフォーム等の新設 SNS を含む広報、新聞広告等)、他大学の各種取組み事例の収集と本研究科での実施可能性の検討を開始(認証評価時に受けたアドヴァイスに基づき、今年度は香川大学を訪問し聞き取り調査を FD 研修も兼ねるかたちで実施予定)。</p>
<p>基準番号：3 予算</p> <p>今後も科学研究費補助金の獲得が主要な外部資金となるので、総合グローバル領域全体として、採択率の向上に努める。</p>	<p>とくに国際地域マネジメント研究科の実務家教員に対して、科学研究費補助金の申請及び獲得には背景として不利な面があるので、研究科としても学部と協力してサポートする方法を検討する。</p>	<p>従来通り、学部と協力して予算の一部を研究推進経費として配分して、総合グローバル領域として科研費獲得件数は現状の8件程度を維持できるように努めている。また、R6年度は、新たな研究課題の創出や共同研究の組織化を図るために、教員間で互いに研究内容を紹介する懇談会の開催を検討中である。</p>
<p>基準番号：4 施設・設備</p> <p>一部の講義室では冬季の暖房が効きづらいう問題があったと見られる。また、学生に対する意識・満足度調査の結果からは、修学および研究のうえで、図書館や ICT 環境を通じて得られる各種サービスを学生がまだ十分に利用していないことを読み取ることができ</p>	<p>冬季の講義室の暖房については、講義室の変更も含めて対策を検討する。</p> <p>また、図書館等の利用の拡大については、新入生オリエンテーション時の説明を更に詳細に行うことで改善を図る。</p>	<p>講義室の冬季の寒さ対策については、R6年度には講義室の変更を措置した。以前の講義室よりも小さく、空調のみならず石油ファンヒーターも常置している部屋であることもあって、寒さに関する問題はいまのところ再発していない。</p> <p>図書館の利用拡大については、R6年度には、オリエンテーションでの説明に加えて、授業時間の一部を割いて教員が新入生を連れて図書館内を1時間ほど案内し、利用方法を周知するとともに利用の拡大を促した。</p>

<p>る。この図書館や ICT 環境を通じて得られる各種サービスの低調な利用は課題である。</p>		
<p>基準番号：5 教育</p> <p>教育課程連携協議会からは、現行のカリキュラムについてバランスの取れたものとの評価を得ているが、企業を取り巻くさまざまな環境変化を踏まえて、科目の拡充や、開講時間の調整作業を伴うが他の研究科との連携も検討していく必要がある。</p>	<p>カリキュラムの改善については、令和5年度から新たに企業アンケートと修了生アンケート、及び修了予定者アンケートを実施する予定としており、その結果も踏まえて改善策を検討する。</p> <p>また、他の研究科との連携については、第4期中期目標・中期計画の評価指標(5)-2-A となっており、年度計画に沿って取り組んでいる。</p>	<p>開講時間の調整可能性については、R5年度第2回目の教育課程連携協議会で学外委員からの意見を聞いて検討を開始した（検討は継続）。</p> <p>カリキュラムの改善については、R5年度に開始した各種アンケートの結果も生かしながら改善策について今後検討していく。</p> <p>他の研究科との連携については、その一つとして、R7年度に開設される看護学科の博士後期課程の学生が本研究科の科目を履修できるように制度を整えた。</p>
<p>基準番号：5 教育</p> <p>学生の英語力についてのチェックの仕組みを整えていくことを検討する必要がある。</p>	<p>在学中に英語力がどの程度伸長したかを把握できるよう、学生に TOEIC の継続的な受験を推奨し、定期的にスコアの確認を行うこととする。</p>	<p>R6年度には、在学生に対して TOEIC 受講料の補助を行うことを初めて措置した。これを通じて在学中の TOEIC 受験とともに入学前と比較できるデータを収集する契機としたいと考えて試行中である。</p> <p>さらに、R6年度には TOEIC L&R のスコアが 500 点に満たなかった学生に対して、英語学習プログラム受講料補助の仕組みを試験的に導入した。</p>
<p>基準番号：6 研究</p>	<p>科学研究費補助金の申請・獲得などと併せ、企業等と研究科、及び教員間の共同研究や研究協力を推進する方策を検討する。</p>	<p>R6年度までの時点では、多数行ってきた企業・自治体訪問は、まだ企業等との共同研究や研究費獲得には顕著な形では繋がっていないが、R6年度には、訪問をきっかけに国際地域学部の課題探求プロジェクトでの新たな連携活動プロジェクトが生まれること</p>

<p>企業や自治体との共同研究、実務家教員と研究者教員との研究や学際的な研究を積極的に推進する方策を検討する必要がある。</p>		<p>が複数見られており、萌芽段階にあると言える。</p>
<p>基準番号：7 社会連携・貢献</p> <p>ホームページ、SNS などを通じて広く広報を行い、とくに本研究科の教育成果と教員や修了生の社会貢献に関する情報について、継続的な情報収集とそれを踏まえて情報発信を強化することが望まれる。</p>	<p>SNS などを用いた新たな広報活動を開始するとともに、教育内容や修了生の活躍状況等をよりわかりやすく周知するため研究科のホームページを大幅に改修している。今後は、研究科の教育成果を入試広報と併せて発信することによって研究科の地域的な認知度を高めるべく、そのための効果的な方策を模索する。</p> <p>また、令和5年度には、修了生アンケート等を新たに実施して、情報収集の拡大と継続化に着手した。</p>	<p>研究科ホームページは、R5年度後半に大幅な内容修正の作業を行い、R6年4月に公開した。同年度内には、厚労省の教育訓練給付金の対象となる指定講座として認定されたので、その新しい情報を盛り込んだページなども追加した。</p> <p>入試広報については、R6年度は、福井大学関係のSNSのほか、新しく結成された研究科同窓会組織を通じた情報発信も開始した。教育課程連携協議会の委員（企業）数を増やしたほか、福井大学同窓経営者の会の会員企業向けに全7回のビジネス講座を開催した。これらを通じて、同窓経営者の会の会員企業を始めとする地域企業等との繋がりを強化した。</p> <p>また、研究科主催の公開講演会は、例年通りR6年度も3月に実施予定である。</p> <p>R6年度は、認証評価時に受けた審査員からのアドバイスに基づき、入学者確保に繋がる他大学の各種取組みについて、事例収集と本研究科での採用可能性の検討を開始する予定である。</p>
<p>基準番号：8 グローバル化</p> <p>海外実地研修について学生の研修希望にある程度対応できるよう、学部・研究科一体となって海外とのコネクションを拡大していく必要がある。</p>	<p>多様な海外実地研修先の安定的・継続的な確保に繋げるための活動（窓口教員の退職等に伴う海外企業等での引継ぎ等）を継続的に実施するとともに、コネクション拡大の方策を引き続き検討する。また、新たに英語版のホームページを作成し令和5年度末に公開予定である。</p>	<p>英語版ホームページはR5年度末に作成・準備作業を行ってR6年4月に初公開した。</p> <p>海外実地研修先の安定的・継続的な確保に繋げる活動としては、R5年度には窓口教員の退職等に伴う引継ぎのための渡航活動等を行い、R6年度には、アメリカ（ハワイ）及びマレーシアの大学との新たな教員・学生間交流を行った。R6年度後半には、その事前交流をもとに1年生のプレ海外研修をマレーシアで実施予定であるほか、海外研修先を更に確保するためにアメリカへの教員派遣も予定している。</p>

※記入欄は適宜追加してください。